

特 別
企 画

「住まいの介護力」 介護保険の活用で高めたい

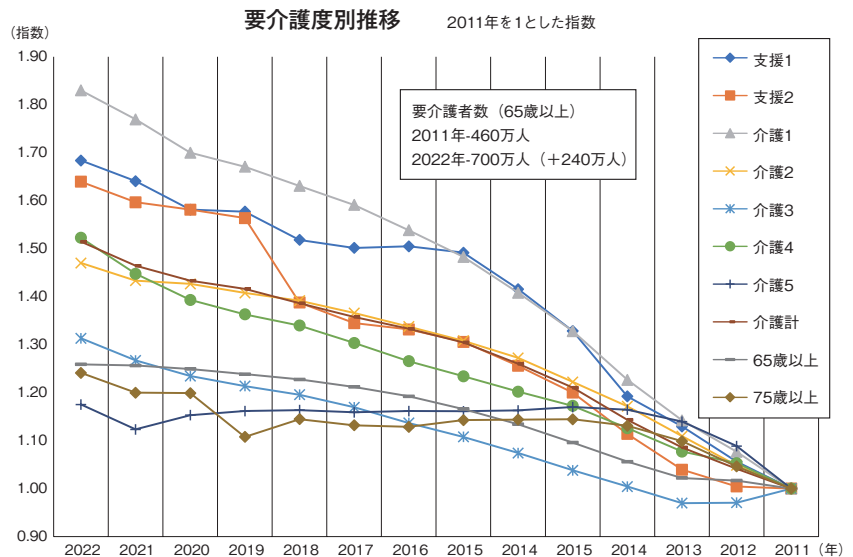


介護保険も始まってすでに20年以上経ちましたが、住宅改修や福祉用具の活用についてはまだ途上の感がいなめません。介護保険制度を利用し「住まいの介護力」を高めるために残された課題を取り上げてみました。

1. 介護を巡る概要

2000年（平成12年4月）に保険介護制度が開始され、はや20年を超えました。当初は介護認定を受けることや、サービス利用に抵抗感があつた人たちも、受けるサービスの効果を知り「介護」への理解も広がりました。加えて2011年に地域包括ケアシステム構築が義務化され、格段に介護へのアクセスが容易になったことなどもあり、65歳以上の要介護者は2011年の460万人から2022年におよそ1.5倍となる700万人に増えました。この間65歳以上人口は2割増へ3,570万人、要介護者の比率の高くなる75歳以上は3割増へ1,850万人。75歳以上の人口と要介護者数

の推移をみると、要支援1～要介護1の軽度者が大幅に増え、特別養護老人ホーム入所対象者となる要介護3～5のうち、介護4は若干増えているものの、介護3の増加率は低く、なかでも介護5は2014年から減少し、2020年以降は75歳以上高齢者の増加率も下回っています。なお2015～2022年の高齢者増加率は95歳以上が最も多く、続いて85～94歳ですから、重度の要介護者の伸びが低いことは、医療面の寄与や、早い段階で「介護サービス」を受けること、介護施設で広がり始めているリフトなどを使用した「寝たきり」にさせない取り組みなどが寄与しているものと思われ、今後の検証が待たれます。



執筆 ▶ 安楽 玲子 ● 株式会社レック研究所 代表

あんらく れいに
集合住宅の計画や設計に携わった後、独立し、各種調査分析などを行う。東京都品川区で「地域高齢者住宅計画」を策定後、「バリアフリー住まい館」を企画・設計し、18年間運営。介護保険開始後はアドバイザーとして要介護者宅を1,000件程訪問。現在は主に個人住宅の設計に携わり、高齢期の住まいの大切さ「住まいの介護力」を広めたいと執筆など活動。資格：一級建築士、福祉用具専門相談員、福祉用具プランナー、介護支援専門員。著書：「住まいで「老活」2018年 岩波新書ほか。